

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報 [号外] 2009年5月27日 発行 日本鉄道労働組合連合会 (JR連合) 【No.16】

内ゲバで7名のJR総連系役員が死亡！

前号までは、革マル派が暴露したJR総連関係者の「秘密黨員名」について検証してきた。当事者がいくら関係ないと主張しても、革マル派から黨員名を明かされ、同派との深い関係を指摘される人物について、革マル派黨員ではないかと疑うのは当然だ。そのような人物多数が機関の中枢を占める組織が、まともな労働組合と言えるのだろうか。

本号からは、JR総連関係者の多数が、革マル派と敵対する中核派などの過激派による「内ゲバ」で犠牲になってきた事実を指摘し、さらに深く検証していきたい。

内ゲバで血塗られた歴史を持つ異様な労働組合はJR総連だけ！

1980年から1995年にかけて、国鉄・JRでは、過激派間の抗争である内ゲバ事件が18件（警察発表）発生し、7名の死者と多数の重傷者を出している。被害者はすべて動労、または真国労（国労内革マルグループが国鉄改革の直前に国労を脱退して結成した労働組合 宗形明著「JR東日本労政『20年目の検証』」）の出身で、JR発足後では、JR総連や東労組の役員や関係者ばかり。そして、いずれも革マル派と敵対する中核派や革労協狭間派が犯行を自認し、襲撃された者を革マル派活動家と断定して、犯行声明を発表している。

「内ゲバ」について、警察庁は広報誌「焦点」で「革命勢力各派には、共通して、自派の革命理論、戦術方針こそが唯一正しく（革命唯一党）、他派は革命を妨げ、混乱させる有害な勢力（反革命勢力）であるとする考え方があります。内ゲバは、このような考えに根ざす党派闘争が暴力抗争の形態をとったものと言えます」と解説している（通巻258号p.4）。

これほど凄惨な内ゲバの暗い歴史を抱えている労働組合など、JR総連以外にはないだろう。多くの役員らが命を狙われる組織が、普通の労働組合と言えるのか。なお、革マル派とJR総連・東労組は「権力の謀略」「絶対に捕まることのない何者かによる犯行」などと述べ、今なお内ゲバであることを必死に否定するのだが、その問題は改めて検証したい。

以下に国鉄・JR関係の主要な内ゲバ事件を掲載する（西岡研介著「マンガローブ」p.145）。

| 発生日 | 被害者 | 役職名(当時) | 犯行声明 |
|-------------|-------------|-------------------------|------|
| 1980年9月22日 | 小谷 昌幸 (重傷) | 動労中央本部教宣部長 (後のJR総連副委員長) | 革労協 |
| 1985年11月11日 | 高橋 由美子 (重傷) | 動労中央本部書記 | 中核派 |
| 1986年9月1日 | 前田 正明 (死亡) | 真国労大阪地本書記長 (他8名重軽傷) | 中核派 |
| 1987年2月23日 | 佐藤 政雄 (重傷) | 動労中央本部副委員長 (後の東海労委員長) | 中核派 |
| 1987年5月18日 | 細田 智 (重傷) | 東鉄組 (現・東労組) 拜島運転区支部委員長 | 中核派 |
| 1987年8月29日 | 嶋田 誠 (重傷) | 東鉄組 (現・東労組) 千葉支部副委員長 | 中核派 |
| 1987年10月30日 | 荒川 一夫 (死亡) | 東鉄組 (現・東労組) 田端分会組合員 | 革労協 |
| 1988年3月3日 | 松下 勝 (死亡) | 東鉄組 (現・東労組) 高崎地本委員長 | 中核派 |
| 1989年2月8日 | 加瀬 勝弘 (死亡) | 東鉄組 (現・東労組) 水戸地本組織部長 | 中核派 |
| 1989年12月2日 | 田中 豊徳 (死亡) | JR総連総務部長 | 革労協 |
| 1991年5月1日 | 湯原 正宣 (死亡) | 東労組水戸地本組織部長 | 中核派 |
| 1993年8月27日 | 中村 辰夫 (死亡) | 貨物労組役員 (他1名重傷) | 革労協 |
| 1995年11月28日 | 一石 祐三 (重傷) | 東労組情宣部長 | 中核派 |